

## 20 マハーバーラタ上演の諸相～物語りの伝統から影絵の上演まで

【全6回】／開催方法：現地のみ

せこやすお  
瀬古康雄

シタール奏者  
しまねガムラン主宰



受講料 一般料金：¥10,600 早割価格：¥9,600(納入期限：5月7日)

【日程】【全6回】 1回／月 第2土曜日 ※7/6のみ第1土曜日  
(5/11、6/8、7/6、9/14、10/12、11/9)

【時間】13：20～14：50

■受講に必要なもの

テキストは使用せず、毎回プリント資料を配布します。

インドの英雄叙事詩マハーバーラタはピーター・ブルックによる演劇作品が有名であるが、東南アジアでは人形劇や影絵で上演されることが多く、筆者も25年程の間、ガムランや影絵を上演してきているので、マハーバーラタ上演の諸相を西洋風の演劇作品から始めて、インドの伝統的な物語り（歌いもの）の原点を明らかにしつつ、アジア各国の人形劇や影絵芝居に至るまでを何回かのシリーズで取り上げて比較研究をしてみたい。

正倉院は「シルクロードの東の終着点」と呼ばれ、僧院の調度品や経典を中心とした正倉院御物が有名であるが、「海のシルクロード」と言われるカンボジアやマレーシアやインドネシアなどの国々では、工芸品や芸術品よりも、僧院や宮殿の庭で演じられる歌や踊り、演劇や芝居などの上演芸術（パフォーマンス）が盛んである。演目はマハーバーラタやラーマーヤナというインド起源の物語りが中心であるが、それらを人形劇や影絵芝居で表現するところに大きな特徴がある。

マハーバーラタの原典はサンスクリット語で書かれているが、今日のインドでは英語による普及版や劇画風の絵本など多様な出版物があり、また、ヒンディー語によるテレビドラマの全国放送も人気番組であった。しかし、最もインド的なものは、パンダワニー（パンダヴァ族の説教節）などの吟遊詩人による「歌いもの」であろう。平家物語は平曲とも呼ばれ、琵琶法師が語る「歌いもの」であるが、マハーバーラタは吟遊詩人によってインドの様々な地方の民族語で伝えられ、海のシルクロードの各地にも語り芸として広められた。

「海のシルクロード」のそれぞれの国には基層の文化として祖先崇拜やアニミズムがあり、マハーバーラタ上演の際は、人間が演じるリアルな演劇よりも、木偶人形や影絵などを使うアニメーション風の舞台が好まれたようである。アニメの舞台では、いろんなキャラクターが次々と登場し、昔から伝えられてきた祖先崇拜やアニミズムはもちろんのこと、それ以後の近現代的な信仰やお祭りも物語りに入れ、場合によっては、処世訓や人生観や宗教哲学のシーンも組み入れて、一連の「知の集大成」としても表現される。

本講座では様々な作品の展示やビデオ鑑賞に加えて、「知の集大成」としての上演芸術の多様性に触れ、また実際に山荘（ガムラン音楽堂）に出向いて受講者全員でマハーバーラタの影絵芝居も行ってみよう。

参考書は特に定めませんが、参考文献を適宜提示するとともに、授業で使用したCDやDVDを閲覧可能にします。